

連載

宇宙への夢・世界天文年 2009【1】

世界天文年 2009 スタート！

～活動をスタートするために～

安藤 享平（天文教育普及研究会 世界天文年ワーキンググループ）

1. はじめに

いよいよ 2009 年が始まりました。今年は「世界天文年 2009」。天文教育普及活動にとって、より広がりを持たせ、また活発な活動を行っていく絶好の機会と言えます。

世界では 135 ヶ国が参加し（2008 年 12 月現在）、日本では当会を始め多くの天文・宇宙関連のコミュニティーや、愛好家が取り組みを始めています。

当会としても、世界天文年 2009 日本委員会の活動に積極的に協力し、またワーキンググループを設け、国内における企画を活発に展開してまいります。

会員のみなさまにおかれましても、この機会に一層さまざまな活動を展開していただければ幸いです。

これから 1 年間に渡って、天文教育誌で「世界天文年 2009」関連記事を掲載してまいります。ぜひ現場実践の参考にさせていただければ幸いです。

今回は、まず活動をスタートするにあたり、「世界天文年 2009」の概要をご紹介します。

2. 世界天文年 2009 とは？

2.1 「世界天文年 2009」の意味

先に触れられていますが、1609 年にガリレオ・ガリレイが夜空に望遠鏡を向けてから、ちょうど 400 年目に当たることに由来しています。[1]

それまでの月の表面の認識について、クレーターを発見したこと、木星のまわりにある

衛星を発見したこと、数々の発見から新たな宇宙像を見だし、今日まで繋がる望遠鏡による宇宙の解明へのきっかけとなった年を記念したものです。

2.2 公式名称・標語など

後述しますが、世界各国で取り組みが行われるのにあたって、公式の名称、スローガンなどが決められています。

(1) 公式名称

The International Year of Astronomy 2009

日本語：世界天文年 2009

略称：IYA2009

(2) 標語（スローガン）

The Universe, Yours to Discover

日本語訳：宇宙…解き明かすのはあなた

(3) ロゴマーク

世界天文年 2009 の活動にあたり、ロゴマークが複数種類用意されています。世界天文



年 2009 日本委員会の Web ページ [2] からダウンロードすることが可能になっています。

図 1 ロゴマークの一例

なお、この世界共通のロゴマークのほか、日本委員会がガリレオ・ガリレイをモチーフに用意した「ガリレオくんとその仲間たち」のキャラクターマークもあります。対象などに応じて活用することができるでしょう。[3]



図2 「ガリレオくん」キャラクターマーク

2.3 決定までの経緯と組織

「世界天文年 2009」は IAU（国際天文学連合）が提案し、UNESCO（国連教育科学文化機関）の承認を経て、国際連合第 62 回総会（2007 年 12 月 20 日）で決議されました。

そして、IAU の運営委員会内には「世界天文年 2009 ワーキンググループ」が設置されています。日本からは日本学術会議物理学委員会 IAU 分科会から海部宣男氏が参加しています。

日本国内でも 2007 年 5 月に、「世界天文年 2009 日本委員会」が組織されました。天文関係のさまざまな機関・組織からの委員で構成され、海部宣男氏を委員長に、日本委員会内に企画委員会（委員長：渡部潤一氏）、募金委員会（委員長：小平桂一）、事務局（国立天文台内）が設置されました。当会からも日本委員会、企画委員会に委員として参加しているほか、ほかの組織を代表して、当会会員も多く委員として参加し、企画の立案、推進に当たっています。

3. 世界天文年 2009 の企画

3.1 さまざまな種類の企画

世界天文年 2009 の企画には、さまざまな種類があります。用意される企画としては、世界各国で共に実施することを目的とした**世界企画**と（表 1 参照）、日本委員会が企画立案し、日本国内で（一部は世界へも呼びかけし）実施していく**国内企画**があります（表 2 参照）。

世界企画の中で、日本も積極的に参加・実施するプロジェクトもあるほか、国内企画についても、組織・団体が主体となり実施していくものや、多くの方に参加・実施を呼びかける企画など、さまざまな形態があります。

表 1 主要な世界企画

企画名	内容
世界中で宇宙を観ようよ 100 時間	天文台ネット中継と天体観察イベントで世界一周
望遠鏡をみんなの手に	廉価な小型望遠鏡を世界に提供
天文学者のブログ	天文学者の日常な生活をブログで紹介
美しい夜空への想い	光害を調べ、無駄な照明を減らそう
ガリレオ先生養成講座	国際共同開発した天文教材の教員向け講座
うちゅうとあそぼう	世界の子どもたちのための宇宙案内プログラム
地球から宇宙へ	街頭で行われる最新の天体写真展
世界中の国で天文学を進めよう	発展途上国にも天文学を

表2 主な国内企画
(世界天文年 2009 日本委員会主催企画)

企画名	内容
アジアの星の神話・伝説	アジア各地の星空伝承を集め、各国で同時出版する
七夕に星を見よう!	8月 22-29日に東アジア各地でライトダウンなどを行い、星空を楽しむ
君もガリレオ	小型望遠鏡を用いてみんなで天体観測を
巡回企画展「宇宙の謎を解き明かす～ガリレオの天体観測から400年」	仙台・東京・名古屋・大阪にある各博物館での特別展示
世界天文年 2009 全国一斉オープニングイベント	全国各地で1月4日に開催される世界天文年オープニングイベント
めざせ 1000 万人! みんなで星を見よう!	全国各地で天文年間にさまざまな星見イベントを開催
7.22 皆既日食中継	各地で観測した皆既日食映像を共有し、世界に発信
日食グラスで月にかくれる太陽を見よう	日食観察専用めがねの普及
ガリレオの望遠鏡精密復元	現代に蘇ったガリレオの望遠鏡の発売
全国どこでも世界天文年! プラネタリウムへ行こう	全国各地のプラネタリウムが星界への扉を開く特別企画
世界天文年 2009 参加・実施マニュアル	世界天文年への参加方法解説書の制作
天文教育シンポジウム 2009「世界天文年から繋げていくために」	世界天文年の企画に携わった人々が集うシンポジウム

星空ブックフェア	本をまくらに宇宙を見よう
ガリレオくんと仲間たち	Web 連載まんが
星と風景を詠む	短歌・俳句・詩のコンテスト

これらの企画については、参加呼びかけなどが Web などをはじめ、広く告知されるので、情報に注目してください。

また、これらの「用意される企画」だけではありません。

特に大切なことは**公認企画(イベント)**として、各地で「世界天文年 2009」の趣旨に賛同し実施されるイベントを「世界天文年 2009 日本委員会公認企画」とすることができる点です。[4]

3.2 各地での「公認企画」で盛り上げを

みなさんが、既に各地・各現場で実施されているさまざまな“宇宙に触れる・知る”活動を、ぜひ「公認企画」として登録してください。

公認企画とすることで、

- ・ 公式ロゴマークの使用
 - ・ 日本委員会 Web ページへの情報掲載
 - ・ 後援名義の使用
- が可能となります。

新たな企画を立てるものだけでなく、これまで実践してきた活動なども、一般に開かれたイベントであれば 2009 年に併せて、公認企画としていただくことで、世界天文年 2009 を契機により多くの人に宇宙へ目を向けるきっかけになることと思います。また、世界天文年 2009 の趣旨を踏まえたアレンジを少し加えることも意義があります。

3.3 活動を広げるために

今回「世界天文年 2009」の企画として実施されたものは、ぜひその実践を多くの人で共有できればと考えています。

各地での活動のアイデアや、ノウハウが共有されることで、別の場所での新たな活動に繋がり、より多くの地域で、宇宙に触れるきっかけになることでしょう。その一つとして、本誌へ実践報告を投稿いただければ幸いです。

また、12月にはクロージングイベントの一つとして、当会主体で企画している「天文教育シンポジウム 2009」でも、ノウハウ共有として発表していただければと思います。

4. おわりに

2009年 はダーウィン生誕 200年、「種の起源」発表 150年目ということで、生命関係でも注目の年となっています。系外惑星などの観測も進む中で、「宇宙と生命」といった繋がりをはじめ、ガリレオ・ガリレイだけでなく、さまざまな天文関係のポイントに注目しての企画も面白いことと思います。

アイデア次第でさまざまな企画が可能であるとともに、世界で1年間行われる大きな「星のお祭り」と捉えて、ぜひお祭りに実施者としてご参加いただければ幸いです。

世界天文年 2009 は、天文に関係するすべての人々で創りあげていくものです。ぜひ、この1年間を楽しみながら、天文教育・普及活動を実践していただければ幸いです。

文 献

- [1] 参考として、ガリレオ・ガリレイ「星界の報告」(岩波文庫)などがあります
- [2] <http://www.astronomy2009.jp/>
- [3] 利用条件などを Web ページで確認した上で使用しましょう
- [4] 公認条件、申請は[2]の Web ページを参照してください



安藤 享平